

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	若葉保育園
日時	令和7年11月17日

1. 活動テーマ

<テーマ>

3歳児…種を探そう（さやの中の種を探そう）

<テーマ設定理由>

・種から育てた黒豆の種ができたので、乾燥したさやから種を出し触れたり観察できるようにした。

2. 活動スケジュール

・園庭で3歳児の数名で行う。
 ・野菜の収穫と共に、収穫し乾燥させた黒豆のさやを見る。
 ・黒豆のさやを触って、種に気づいたら種を取り出してみる。
 ・種を出してみ、五感で感じたことを友達と共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

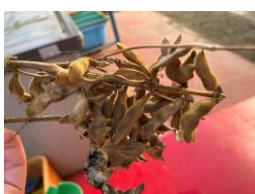
・乾燥した黒豆のさや
 ・机
 ・トレイ

4. 探究活動の実践

<活動内容>

・乾燥させた黒豆のさやを友達と見て感じたことを伝え合う。
 ・色や形など気づいたことを友達や保育士に伝えようとする。
 ・膨らんださやと空のさやがあることに気づいたり、五感で感じたことを話す。
 ・さやを触って中に何が入っているのではと気づき、出してみようとする。
 ・さやから出てきた種を見て、形や色など五感で感じたことを友達や保育士と共有する。
 ・種やさやの形の違いや色の違いを友達や保育士に話をする。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>



・トレイの上に並ぶ乾燥した黒豆の苗を見て「これなんだ」と友達と見ながらつぶやく。
 ・さやを見て「茶色だね」とつぶやきながら、さやを触ってみる。
 ・友達がさやを触っている様子を見て「なにしているの」と興味を持って触る子がいた。
 ・膨らんださやを触って「何が入っているの」と保育士に聞いていたので「分からないからあけてみたら」と伝えた。
 ・指先でさやを触り、つぶれると「こわれちゃった」と保育士や友達に伝えている。
 ・指先で押しつぶれないことが分かったと、さやを破いてみようとする子がいた。
 ・破いてみると中から種が出てきて「わぁ」と歓声をあげ「見て」と保育士や友達に教えながら見せてくれた。
 ・さやから出てきた種を見て「黒いね」と友達と見せ合う。
 ・さやをつまんで出てきた種をトレイの隅に集めて並べる子がいた。
 ・出てきた種の中でしわがよっている種があり、丸い種と交互に指先で触って感触を確認している子がいた。
 ・でてきた種を集めて数える子がいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・今回の活動を振り返り、改めて子どもたちの「探究する力」と、それを引き出す環境や関わり大切さを実感した。乾燥したさやを初めて目にした子どもたちは、不思議そうな表情でじっと見つめ、触れて確かめる姿が見られた。さやに触れながら「かたいね」「からから音がする」など、感じたことを言葉にして保育士や友達と伝え合う姿から、葉っぱとは異なる素材であっても、十分に探究活動が深まることを学んだ。種を取り出した後のさやだけでも、形や感触、音などに着目し、子どもたちの興味関心を広げる活動につなげたのではないかと感じている。
 ・さやから種を出す場面では、「何が入っているのだろう」「どうやったら出てくるのかな」「こっちは入っているよ」など、子ども同士が言葉を交わしながら試したり比べたりする姿が見られた。保育士が答えを伝えなくても、子どもたち自身が疑問を持ち、考え、確かめ合うことで探究が進んでいく様子に、援助のあり方についても多くの学びを得た。
 ・今回の活動は3歳児であったため、五感で感じたことを言葉にして伝え合う姿が多く見られたが、0歳・1歳・2歳児で同じ素材に触れた場合、どのような表情や仕草、関わりが生まれるのかにも興味を持った。年齢によって表現の仕方は異なるものの、それぞれの発達段階に応じた探究の姿があると考えられるため、今後は低年齢児でも素材との出会いを大切に、探究活動として取り入れていきたいと感じた。今回の振り返りを通して、子どもたちの気づきややり取りに目を向け、学びにつなげていく保育の重要性を改めて認識する機会となった。